

生態と病害動物（寄生虫学）

M-03-06-L

オーガナイザー

生体調節機構研究部 教授 改正恒康

教員名

生体調節機構研究部

教授 改正恒康

講師 佐々木泉

分子遺伝学講座

教授 井上徳光

I 授業の目的

ヒトに病害を与える寄生虫や医動物に関して、その生物学的特性、感染経路、病態、診断、治療、予防、疫学、および、ヒトの寄生虫に対する免疫応答機構、寄生虫の免疫回避機構などを理解し、習得する。

II 到達目標

1. 人体寄生虫、医動物の種類、各々の特徴と相違を説明できる。
2. 主な原虫（赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫、クリプトスポリジウム、サイクロスポーラ、大腸バランチジウム、マラリア、トリパノソーマ、リーシュマニアなど）の形態、生活史、感染経路およびこれらの原虫による原虫症の病態、診断、治療、予防、疫学について説明できる。
3. 主な吸虫（横川吸虫、肝吸虫、肝蛭、肺吸虫、住血吸虫など）の形態、生活史、感染経路およびこれらの吸虫による寄生虫症の病態、診断、治療、予防、疫学について説明できる。
4. 主な条虫（日本海裂頭条虫、無鉤条虫、有鉤条虫、エキノコックスなど）の形態、生活史、感染経路およびこれらの条虫による寄生虫症の病態、診断、治療、予防、疫学について説明できる。
5. 主な線虫（回虫、鞭虫、蟯虫、糞線虫、旋毛虫、糸状虫など）の形態、生活史、感染経路およびこれらの線虫による寄生虫症の病態、診断、治療、予防、疫学について説明できる。
6. 幼虫移行症の概念と主な幼虫移行症（イヌ回虫、アニサキス、顎口虫、広東住血線虫などによる幼虫移行症）について説明できる。
7. 主な衛生動物、衛生動物による病害、人獣共通寄生虫症（人獣共通感染症）について説明できる。
8. 主な動物毒について説明できる。
9. 主な寄生虫症の診断、検査法について説明できる。
10. 寄生虫に対するヒトの免疫機構と寄生虫の免疫回避機構について説明できる。
11. 主な抗寄生虫薬と寄生虫の薬剤耐性機構について説明できる。

III 教育内容

講義日程表参照

IV 学習および教育方法

講義（12時間）：「寄生虫学テキスト」文光堂を中心に講義を進めます。

V 評価の方法

筆答試験で行う。出席が3分の2に満たない学生、授業態度の悪い学生には、試験、再試験を認めないことがある。

VI 推薦する参考書

上村、井関、木村、福本 「寄生虫学テキスト」 文光堂

吉田幸雄、有菌直樹 「図説人体寄生虫学」 南山堂

講義日程表

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	R5.5.17	(水)	3	医動物学概論	生体調節	改正
2	R5.5.18	(木)	4	原虫類とその疾患①	生体調節	改正
3	R5.5.18	(木)	5	自然免疫トピックス	分子遺伝	井上徳光
4	R5.5.24	(水)	3	原虫類とその疾患②	生体調節	佐々木
5	R5.5.26	(金)	4	吸虫類とその疾患	生体調節	佐々木
6	R5.5.26	(金)	5	条虫類とその疾患	生体調節	佐々木
7	R5.5.31	(水)	3	寄生虫トピックス(特別講義)	生体調節	未定
8	R5.6.2	(金)	4	線虫類とその疾患①	生体調節	佐々木
9	R5.6.2	(金)	5	線虫類とその疾患②	生体調節	佐々木
10	R5.6.7	(水)	3	衛生動物類とその疾患	生体調節	改正
11	R5.6.9	(金)	4	寄生虫症の診断・検査法	生体調節	改正
12	R5.6.9	(金)	5	まとめ	生体調節	改正
13	R5.6.19	(月)	4,5	試験		